

# ささやき 第36号

編集・発行 特定医療法人 明和会 琵琶湖病院  
聴覚障害者外来スタッフ  
FAX 077-579-5487  
TEL 077-578-2023

たのしいけれど、むずかしい！ 医師 村上純一

精神科医として仕事をすると、なつてから、当然のことながら人と人のコミュニケーションのとり方について考えることが多くなりました。それまで何気なく使ってきた手段、つまり会話、仕事、書いたものなど、何気なく使ってきたものを通して、時として相手に思ってもらった伝わり方をしているところを痛感しています。情報をうまく伝え、逆になつてきた時の障害を持つたないに関わらず、うれし、逆に誤解を生んでしまった時のくやしさは、社会生活を送る人間にとって一番原始的であり、また大事な感情の動きのみなものなかもしれません。一方で、情報伝達手段の多様化によって聴覚情報を補う機能はますます発達しているように思います。その陰では様々な取り組みへの努力が続いていることに、尊敬の念を抱くばかりです。私自身はまだこれといった手話も知らず、これまで聴覚材があればひびき教えてください。主私にも気軽に勉強できる教その豊富さに驚きました。三石坊エ化された本やビデオ教材など、話聞通コーナを見かけ、シリ追先日、本屋さんでまたまた手たいと思います。

個人としても、ずと考えていき私自身、精神科医として、また一人一人が考えつづけることか大事なのではないでしょうか？ まるごと、聴覚障害を持つたないに関わらず、どうしたら本当の意味で上手なコミュニケーションが取れるか、一人一人が考えつづけることか大事なのではないでしょうか？ まるごと、聴覚障害を持つたないに関わらず、どうしたら本当の意味で上手なコミュニケーションが取れるか、一人一人が考えつづけることか大事なのではないでしょうか？

ことだと思えます。でも大切なのは、きれいに舗装された道を、いかにうまく活用するかという部分ではないかと考えています。つまり、聴覚障害を持つたないに関わらず、どうしたら本当の意味で上手なコミュニケーションが取れるか、一人一人が考えつづけることか大事なのではないでしょうか？

☆

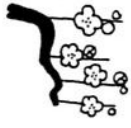
11月2日から3日間、青森市で開かれた全日本ろうも通訳青年部研修会に、医師の藤田が「心のケア」分科会のコメンテーターとして参加しました。青年たちの熱気あふれる充実した集会でした。

☆

12月14・15日、埼玉市で開催された全国聴覚言語障害者福祉交流会で、心理士の古賀が入門講座を担当しました。

☆

琵琶湖病院本館の改装がいよいよ始まりました。平成17年に完成予定ですが、工事中は何かと迷惑をおかけしますが、ご理解いただけますようお願い申し上げます。なお、工事期間中は迂回路を設けておりますので、敷地内の掲示に留意ください。



## 《患者さんの声》 30歳代 男性

私が知っている範囲では総合病院のみですが片言でも手話・指文字のできる看護婦さん、事務員さんのいる病院が増えている昨今、難聴者としての立場で言うとやはり有難いものです。個人的には手話や指文字ができなくても、話し方をゆくりしたりそれで分かるなければ筆談でも患者との意思疎通ができればそれで良いと思っています。大切なのは患者へ伝えるべき情報を伝えることではないでしょうか。琵琶湖病院では何の気兼ねもなく分からない事を聞き返せるので、その点は非常に安心でき終始リラックスして診察に臨めます。他の病院でもそのようにして頂きたいのですが、担当医師や看護婦さん、事務員さんにより理解にバラツキがあるのは仕方ないことでしょうか。

最初に書いたように総合病院などで手話・指文字の出来る方、あるいは筆談を例からずにして頂けるスタッフもいますが、まだまだそうでない人が多いのが現実です。仕事を給料を得るための手段としてしか考えてないから起る問題だと思いますが、その点は今後の改善を望みたいものです。

まいりました。そして気付けば、せいかいゆうだれたってほほえめはなかとさくと一緒に歌い、『手話』を真似ていました。孫に「覚えるの難くないので？」と聞くとしたのしいで」という言葉がか

琵琶湖病院に勤務するまで私は『手話』について深く学ぶ経験がありませんでした。思っていることを声に出すだけでなく、手や顔、全体を使って表現することの大切さ、そして皆さんに歌を聞き、聞いてもらいたいという思いから、だそうです。

『手話』のこの難しさを表現の一つなので、すから、私にとって大切なことを感じさせられる出来事でした。これからは、これからは、と深く『手話』のこのことを学び自分のものにしていきたく思います。

そして最後に、日常生活の中で誰もが『手話』を取り入れ、会話ができたらすばらしいだろうなと思っています。

## 手話との出会い

病棟看護師 橋井 清美



①両手の親指と人差指で作った丸をひらりとさせながらする。(雪)



②両手でだるまの輪郭を描く。



③両人差指の背側を下に向けて両腕から前に出す。

## 雪だるま

## 又キ